

## 遠隔授業で開ける未来

富澤和嘉恵

私は、友人の紹介がきっかけで遠隔授業の受講を始めました。私は将来養護教諭になりたいと考えており、障害者施設でアルバイトをしていることから、特に障害児との関わりについて学びたいと思い、自身の学習を深めるとてもいい機会となりました。実際受講してみると、その場に先生がいるような感覚になり、学外の先生の授業が受けられるということからも新鮮さを感じました。質問はマイクを使用しますが、先生の姿がその場にはないので緊張し、声が相手側に聞こえているのが不安になりました。授業内容は、様々な障害児についての症状や関わり方などを学び、後半は実際関わった障害児を事例にあげ、自分の関わりはよかったのか、どのように関わればよかったのかなど、学生で検討し合い先生からアドバイスをいただくという授業形式になっていました。遠隔のため質問しづらいのではないかと考えていましたが、先生が考慮してくださり、とても授業が受けやすい環境を作ってくださいました。

私は、この遠隔授業で、小学校の学習チューターという学習支援のボランティアの存在を知り、北信で活発に行われていることを知りました。「私もやりたい！将来のために役立てたい！」という想いが芽生え、先生に相談をしたところ、直接教育委員会に問い合わせてください、看護大の事務の方の協力もあり、活動を開始することができました。駒ヶ根市内の小学校2校でボランティアをさせていただいており、1校は週1回、もう1校は週2回程度で楽しく活動させていただいています。主に活動しているのは後者の小学校で、活動内容としては、朝8時半～下校時間まで先生として児童と関わっています。私は特別支援学級を担当しているのですが、普通の児童と異なり、学力の差があり、関わり方などが難しく日々格闘しています。その中でも、叱るべき時に叱ることができず悩んでいました。先生からは「まず、関係を築くことが大事だよ。」とアドバイスをいただき真剣に関わっていきました。ある日、ある児童がわがままを言い、言うことを聞いてくれませんでした。ここで甘やかしてはいけないと思い、自分の想いやなぜそうしなくてはならないのかなど説明しました。すると児童は行動を起こし始めました。私はこのことから、ただ叱るのではなく信頼関係が成り立った上で叱る意味が児童に伝わり、児童への想いを含ませながら関わっていくことが大切であると学びました。また、児童は日々大きく成長しており、毎回感動させられています。叱るだけでなく児童を1人の人間として認め、できたことに対し最大限に褒めることも重要であると感じています。児童との関わりは、現在も日々悪戦苦闘していますが、真正面からぶつかり信頼される1人の先生になれるよう関わっていきたいと思います。その他に、校長先生や教頭先生に養護教諭を目指していることを伝えると、養護教諭の仕事の補助をさせていただけることになりました。保健室対応はもちろん、健康観察カードへの記入や診療の補助もさせていただいています。保健室対応では、ただ症状だけに目を向けるのではなく、その症状の裏には何が隠されているのかなど精神面にも目を向けなくてはならないことを学びました。また、気になる児童に対しては担任

に伝え、連携をはかることの重要性についても学びました。健康観察カードへの記入、診療の補助については、記入の仕方を学び、児童の健康を保持増進するうえで健康観察カードは大切なものであると感じました。補助をさせていただいている中で、養護教諭の魅力が一層増し、養護教諭への想いが強くなりました。学習チューターの活動だけでなく、このような機会を与えてくださりとても感謝しています。

今振り返ると、友人からの紹介、遠隔授業との出会いがなければ今の私がなかったと思いますし、日々こんなにたくさんのことを学べなかったと思います。友人や遠隔授業には本当に感謝しています。「学校の授業とは関係ないから。」と考えるのではなく、学生の間しか思いきり勉強することができないので、今どのような授業が行われているのか興味を持ち、様々な授業を受け自分自身の糧にしてほしいと思います。その中に必ず自分の将来を開くことができる授業があると思います。私は、この遠隔授業で将来が開けたので、皆さんも遠隔授業で未来を切り開いてみませんか？

(本学学生 編入2年生)